

♪ 2022年度 **poco a poco** ♪

Nr. 26 2023年2月16日(木)

文責:プファイル・辰巳

謝肉祭(カーニバル)って?

リオのカーニバル、ベネチアの仮面カーニバル、ドイツのバラの月曜日など、それぞれの国で謝肉祭の行事は様々ですね。ドイツ国内でも、地方色があり、盛大な仮装行列が出る町もあれば、あまり大きな行事はしない地方もあるようです。いずれにしても、今日から来週の火曜日までがカーニバルの頂点。

今日は、まず Weiberfastnacht (女性のカーニバル)。地方によっては、女性が男性のネクタイをちょん切っちゃったりするところもあるようなので、お気をつけください。土・日・月・火曜日まで、今年はコロナ前のような盛大なファッシングの行列が予定されているところも多いようです。フランクフルト市内は日曜日、マインツはバラの月曜日、そしてフランクフルトのヘデンハイム地区は伝統的な行列、Klaa Paris が火曜日に予定されています。

ところでカーニバルっていったい何のお祭りなのでしょう。日本語では「謝肉祭」。お肉に感謝する? そうなんです。カーニバルの火曜日の翌日は「灰の水曜日」。この日から復活祭までの間、キリスト教では、十字架上でのキリストの受難を思い、断食期に入ります。最近では、自分の健康のためにも、この期間は「お肉を控えます」「お酒を控えます」「甘いものを控えます」など、熱心なキリスト教徒でなくても、この期間を健康週間にする人も多いようです。そこで、その断食期に入る前に、お肉をしっかり食べ、ついでにちょっと羽目を外して大騒ぎしておこう、というのがカーニバルのようです。

ミニコンサート申し込み締め切りは、
2月20日月曜日です!! お忘れなく!



音楽鑑賞会の感想文から・・・ ②

<小学部5年生>

「春の海」と「トルコ行進曲」しか知らなかったけど、いろんな音が聞けてよかったです。「春の海」の尺八の音が、ピアノだから続けて出せないと思っていたけど、音が続いていたので、すごいと思いました。また、この音や尺八の音を、ピアノひとつでさいげんしていたので、とてもおどろきました。



私は、「春の海」と、「トルコ行進曲」が心に残りました。なぜなら、「春の海」は、ことと尺八というピアノとは別の楽器で、さらに二人でえんそうする曲なのに、二人でえんそうしているかのような音色だったのが、すごかったからです。「トルコ行進曲」は、今までは動画でしか聞いたことのない曲だったけれど、プロの人がえんそうしていて、感動したからです。えんそうしている表情も、心がこもっていて、すごくいいな、と思いました。

今日聞いた曲の中で一番心に残ったのは「春の海」と「月の光」です。音楽の授業の時にことと尺八でひいた「春の海」と、ピアノでひいた「春の海」では印象が全くちがいました。おことと尺八でひいた「春の海」は春というよりはお正月のようなイメージでしたが、ピアノでひくとおだやかな海に桜の花びらが散っていくようなイメージでした。(ピアノをひく時)上半身で表現していて、その場面場面が、伝わりやすかったです。

<小学部6年生>

ぼくはドビュッシーの「月の光」を聞いて、夜空にうかんでいる、やさしそうな満月をイメージしているのかなと思いました。曲がふんわりとした、ゆっくりなテンポだったので、ドビュッシーは「静かな夜」ということも曲に表したかったのではないかなと思います。ショパンの「革命」では、ショパンの悲しい、そして怒りの気持ちを曲に表現したのだと思います。曲のテンポや音の強弱など、それぞれの曲を作った人たちの思いを、ピアノの演奏にこめていたところが、南美さんのすごいところだと思いました。

次ページに続く……

指は見えなかったけど、曲ですごさが伝わってきました。江尻さんは体がゆれたり、表情が笑ったりしていたので、体まで曲に入りこんでいるみたいで、楽しそうでした。

ドビュッシーの「月の光」では、目をつぶれば月が見えてくるようで、とてもきれいな音色でした。

ピアノでは弾けないと思っていた「春の海」をピアノで弾いていたところが、一番印象に残りました。ことや尺八という種類の違う楽器の曲でも、見事に表現したところにおどろきました。特に最初の音は、「和」の雰囲気がかたよ、この音にしか聞こえませんでした。他にも「革命」はとても勢いがあるし、様々な思いがこもっていて、とても複雑な気持ちになりましたが、だんだん曲に引きこまれていきました。

今日演奏を聞いて、曲の作者が何を考えて曲を作ったのかを想像しました。例えば、C.ドビュッシー作の「月の光」だと、月の光が夜空で静かに煌めく様子から、静かな曲になったのかなと思いました。演奏している江尻さんが、上半身と手や腕に、よく揚をつけていて、曲がどんな思いで出来ているかが、よく伝わってくるような演奏でした。

< 中学部1年生 >

今日、江尻南美さんの演奏を聞き、とても感動しました。曲によって弾き方を変えていて、感情をピアノに伝えながら演奏するかのように、静かに弾いたり、楽しそうに弾いたりしているのがすごかったです。ドビュッシーの「月の光」では、そのきれいな音で、とてもリラックスすることができました。演奏を聞いている人に、こういう感情をいだけさせることのできる江尻さんはすごかったです。

自分も同じように音楽をやっているのですが、やっぱりプロとアマチュアの違いは、体の使い方だと思いました。激しいところは体を大きくゆらし、体全体で表現していました。小さい音の時は、耳を傾け、音を聞きとっていました。次から自分もチェロを弾くときは、体全体で表現します。



< 中学部2年生 >

今日弾いてくださった曲の中で、一番心に残ったのは、宮城道雄の「春の海」です。私は岡山県出身で、瀬戸内海を何回も見たことがあります。美しい瀬戸内海をとても上手に表していて、とても心地よかったです。私はピアノを習ったことがないので、曲を弾くことの難しさを知りませんが、とても安心できる演奏で、気持ちよかったです。

今日は朝からとても疲れていて、リラックスできていなかったんですけど、曲を聞いて、とてもリラックスできました。初めて聞いた曲もあるし、何回か聞いたことがある曲もありました。特に「トルコ行進曲」と「春の海」が一番好きです。途中で、演奏がすごくうますぎて、体の力がぬけて、寝てしまいそうになりました。また、来年聞けるのを楽しみにしています。

< 中学部3年生 >

ピアノを弾いているときの手がすごかったです。私はピアノができないので、「春の海」のときに、楽譜を見ながら、あんなにすばらしい演奏をしていて、すごいなあと思いました。私は楽譜を読むのにも時間がかかるので、一度に二つのことをしてすごいなと思いました。「子犬のワルツ」の演奏を聞いているとき、おばあちゃんの家を思い出しました。聞いていて楽しかったです。



今回のピアノの演奏は、自分にとっても素晴らしいものでした。全ての曲が本当に素晴らしかったのですが、私が一番印象に残った曲は、C.ドビュッシーの「月の光」です。やわらかい音調であるからこそ、ひとつひとつの手の動作が重要になってくるのですが、その動作の中で、弾くスピードだったり、手の落とし方だったり工夫されていて、「あっ」となっていました。自分はピアノをやめてしまった身ではありますが、今回の演奏を聞いて、もう一度やってみようと思いました。江尻さん、忙しい中お越しくださり、ありがとうございました。